

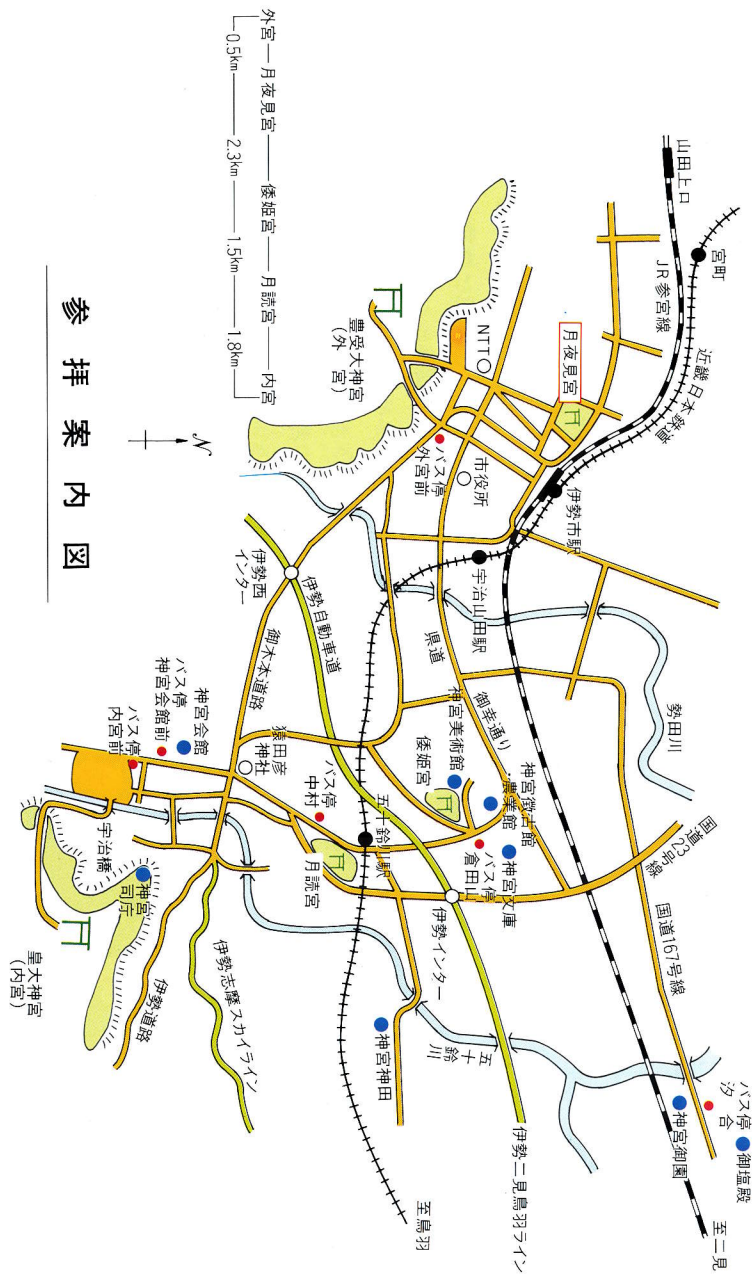
豊受大神宮別宮

月夜見宮

参拝のしおり



神 宮 司 廳



豊受大神宮別宮 月夜見宮

とようけだいじんぐうべつぐう
つきよみのみや

一、御祭神

月夜見尊
月夜見尊荒御魂

二、御鎮座地

伊勢市宮後一丁目

J R伊勢市駅前から南に徒歩にて十分。また、外宮から北に徒歩十分で、楠、樺、杉その他常緑の木々のおい茂った当宮の御社頭に達します。一步神域に入りますと、町中のお宮とは思えない、清らかな静けさが、感じられます。



参道入口

三、御鎮座の由来

御祭神の月夜見尊は、天照大御神の弟神で、皇大神宮別宮の月讀宮におまつりされている月讀尊と、御同神であります。当宮では、月夜見尊の文字が用いられております。

月夜見尊の御事については、日本書紀（元正天皇養老四年（七二〇）奏進）の上巻に、伊邪那岐命、伊邪那美命二柱の御親神が、天照大御神をお生みになり、次に月讀尊をお生みになられ、月讀尊は夜之食国を治めるようにとご委任されたと記されております。

日本書紀には、月夜見尊（月讀尊の文字も用いられております）は、その光彩（ひかりうるわしいこと）が、天照大御神に垂ぐものであると、たたえられております。天照大御神のご神徳は、「その光華明彩（ひかりうるわしいこと）、六合の内に照り徹るほどでございます」と、太陽にたとえられています。月夜見尊の

ご威徳は、それにつぐものとして、月になぞらえて、たたえられたと考えられます。

皇大神宮別宮の月讀宮は月讀尊と月讀尊荒御魂がそれぞれ御殿を分けておまつりされていますが、月夜見宮は、月夜見尊と月夜見尊荒御魂が一つの御殿に合わせておまつりされています。

神様の御魂のおだやかなおすがたを、「和御魂」と申し上げるのに対して、時にのぞんで、格別（ごうべつ）に顕著なご神威をあらわされる御魂のおはたらきを、「荒御魂」とたたえます。

なお、月夜見尊、月夜見尊荒御魂として、ともに「尊」の文字が用いられておりますが、これは、日本書紀巻第一において、神々の御事をのべるにあたり、特に注記して、「至って貴きを尊といひ、そのほかを命」とあるのによるもので、日本書紀の文字づかいに従っております。

次に、「別宮」と申しますのは、本宮との間柄を示す

ご称号でありまして、皇大神宮、豊受大神宮を、「本宮」とするのに対し、あたかも本家に対する分家の意味で、別宮と称するのであります。別宮の「宮」は宮号と称し、天皇の思し召しにより、古くは勅書をもって、のちには官符をもって、定められました。これを「宮号宣下」と申します。神社にご称号をたてまつることは、御祭神のご神威の輝きによります。これを敬うことはいよいよ厚ければ、神の御稜威も、いやさらに輝きをますものであります。

月夜見宮は御鎮座地が伊勢市の中央に位置し、周囲は繁華街となっておりますが、古くは高河原とよばれ農耕と深いつながりのあるお社であります。延喜大神宮式第六十代醍醐天皇延長五年(九二七)奏進)には、外宮の摂社の首位に列せられておりましたが、鎌倉時代のはじめ、第八十三代土御門天皇の承元四年(一二一〇)に、別宮に昇格されました。

四、恒例のお祭

当宮は、正宮に準じて、鄭重にお祭が奉仕され、祈年祭、月次祭(六月、十二月)、神嘗祭(十月)新嘗祭(十一月)の諸祭には、皇室から幣帛がたてまつられます。

一月 一日	午後十時	大御饌	歳旦祭
一月 三日	午前八時	大御饌	元始祭
二月 十一日	午前八時	大御饌	建国記念祭
二月 十八日	午前八時	大御饌	祈年祭
五月 十四日	午前十時	奉幣	風日祈祭
六月 十八日	午後十時	由貴夕大御饌	月次祭
六月 十九日	午前二時	由貴朝大御饌	風日祈祭
八月 四日	午前十時	奉幣	神嘗祭
十月 十八日	午後十時	由貴夕大御饌	新嘗祭
十月 十九日	午前二時	由貴朝大御饌	
十一月二十四日	午前八時	大御饌	
	午前十時	奉幣	



舎水手と所祓

十二月 十八日	午後十時	由貴夕大御饌	月次祭
十二月 十九日	午前二時	由貴朝大御饌	
十二月二十三日	午前十時	奉幣	天長祭

五、式年遷宮

二十年毎の式年遷宮も、外宮とご同様に奉仕され、その日時は天皇陛下のお取り定めを仰ぐならわしであります。この度の式年遷宮は、平成六年十二月に行われました。

御社殿は南面し、その構造は外宮に準じ、神明造で、御屋根は萱葺、鯉木は五本、東西両端には、外宮と同じく外木ぎ(垂直切)の千木が高くそびえ、周囲には瑞垣をめぐらし、瑞垣御門と鳥居があります。

次の遷宮のための御敷地は、古殿地とよばれ、現在の御殿の東に設けられております。

宿衛屋では、御神楽、御饌の取り次ぎ、また、大麻、守祓の授与、参拝証印の押捺等をお取り扱いしております。



例祭には舞楽を奉奏



域内に御鎮座の摂社高河原神社

倭姫宮	風日祈宮	伊雑宮	瀧原竝宮	瀧原宮	伊佐奈弥宮	伊佐奈岐宮	月讀荒御魂宮	月讀宮	荒祭宮	宮名
倭姫命	級長戸辺彦命	御天照坐皇大御魂	御天照坐皇大御魂	天照坐皇大御魂	伊弉冉尊	伊弉諾尊	月讀尊荒御魂	月讀尊	荒天照坐皇大御魂	御祭神
伊勢市楠部町	皇大神宮域内	志摩郡磯部町大字上之郷	瀧原宮域内	度会郡大宮町大字滝原	同	同	月讀宮域内	伊勢市中村町	皇大神宮域内	御鎮座地

皇大神宮 別宮

十所

風見宮	月夜見宮	土御祖宮	多賀宮	宮名
級長戸辺彦命	月夜見尊荒御魂	大土御祖神	荒御大御魂	御祭神
豊受大神宮域内	伊勢市宮後一丁目	豊受大神宮域内	豊受大神宮域内	御鎮座地

豊受大神宮 別宮

四所

六、月夜見宮奉賛会

当宮の崇敬団体として、伊勢市内在住の崇敬者を中心として、昭和三十五年三月五日に月夜見講が発足、現在は月夜見宮奉賛会と改称し、毎年四月十九日と九月十九日の両度、神恩感謝の大祭を執り行い、奉賛行事等もあり、終日、御社頭は賑わいます。

月夜見宮の他に神宮の別宮はこれだけあります。